

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 5 年度第 3 回行田市男女共同参画推進審議会
開 催 日 時	平成 2 6 年 2 月 1 2 日（水） 開会；午前 1 0 時 0 0 分・閉会；午後 0 時 1 0 分
開 催 場 所	行田市男女共同参画推進センター 2 階学習室
出席者（委員） 氏 名 ◎会長 ○副会長	◎田代美江子委員、○山崎孝子委員、井上文子委員、 山岸泰輔委員、武井知英子委員、筆 容三委員、 西山カツ枝委員、青木敦子委員、矢本政子委員、 松島 弘委員、大野久美子委員、松村隆史委員
欠席者（委員） 氏 名	茂木美智代委員、小島一男委員
事 務 局	菅原広志（所長）、大澤永江（主査）
会 議 内 容	（１）平成 2 5 年度 VIVA ぎょうだ実施事業報告について （２）平成 2 6 年度 VIVA ぎょうだ実施事業計画（案）について （３）第 3 次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況調査結果に係る審議会の意見について （４）その他
会 議 資 料	・平成 2 5 年度 VIVA ぎょうだ実施事業報告（平成 2 5 年 1 2 月末現在） ・平成 2 6 年度 VIVA ぎょうだ実施事業計画（案） ・平成 2 4 年度分第 3 次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況報告書 ・審議会等への女性の登用状況（平成 2 4 年度） ・平成 2 4 年度分第 3 次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況報告書に対する行田市男女共同参画推進審議会の評価及び意見（案）
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	・ 欠席委員の報告 ・ 会議の成立及び傍聴希望者の有無について ・ 会議資料の確認 次第の 1、開会を山崎副会長にお願いする。
開会（山崎委員）	（開会の言葉）
事務局	次第の 2、会長あいさつを田代会長にお願いする。
田代会長	（会長あいさつ）
事務局	議事に進行については、審議会運営規則第 3 条の規定に基づき、田代会長に議長となっていていただき進めていただきたい。
議長	それでは、議長を務めさせていただく。 議事の（１）、平成 25 年度 V I V A ぎょうだ実施事業報告について事務局から説明をお願いします。
事務局	（会議資料 1、「平成 25 年度 V I V A ぎょうだ実施事業報告（平成 25 年 12 月末現在）」の詳細説明）
議長	事務局から説明があったが、委員から質問、意見など伺いたい。
松島委員	情報紙「VIVA」は年 2 回発行しているが、3 箇月に 1 回くらいの発行とすることはできないか。
事務局	現在、A4 版カラー刷り 6 ページのものを、年 2 回市内に全戸配布している。

議長	予算的には年間 50 万円程度かかっている。 財政状況が厳しい中、予算を増額することは難しいと思うが、委員ご提案の発行回数を増やすことについては、今後広報手段等を研究していきたい。 現在のものはカラーで見やすいし、ページ数的にもちょうどよいと思う。 例えば、2回はカラーで発行して、あと2回は単色刷りとするなどの方法もあるのではないか。
事務局	情報紙を発行するためには、取材、編集、印刷、発行といった過程で約2箇月ちょっとかかる。年4回の発行となると、時間的にも厳しいというところもある。
議長	情報紙の作成をチームに分けて取材、編集するという方法もある。 予算的なことが解決できれば、そういう方法もあるのではないか。
山崎委員	講座の「キャリアアップ出前セミナー」の参加者は、どの年代が多かったか。
事務局	年齢的には30代、40代が多く、参加者は市内在住者、市外在住者半々くらいであった。 グループワーク中心のセミナーであり、再就職の不安を取り除くことを目的とする内容であった。
議長	このセミナーは、実際に再就職に繋がるものであったのか。
事務局	この講座は、自分にあった働き方を見つけていただくということを主眼に置いたものであった。正社員や派遣社員、パート社員など、それぞれの働き方のメリット、デメリットな

	どを学んでいただく講座だった。
議長	他市でもこういったセミナーは実施していて人もすごく集まるが、実際再就職に繋がっているかというところでもない。 参加者は、仕事の探し方の一助になるようなセミナーを期待していたのではないか。
事務局	参加者からは、「再就職に向けて前向きになれた」といった感想をいただいた。
井上委員	啓発事業のパネル展示は市報等で周知したのか。
事務局	市報の掲載には間に合わなかったもので、ホームページで周知した。
井上委員	何人くらいの方に見ていただけたのか気になった。
事務局	見ていただいた方からは好評だった。市報で周知できればなおよかった。
井上委員	「つ・ぶ・や・き」というパネルは、誰のつぶやきなのか。また、「表現ガイド」というパネルはどういうものか。
事務局	「つ・ぶ・や・き」は女性のつぶやきを表したもの。 「表現ガイド」は、社会の中にある性別による不適切な表現を表したパネルである。
井上委員	ぜひ、市報で周知してほしい。
大野委員	こういった講座の開催を、市民が知る手段は何が多いか。
事務局	講座参加の申し込みをいただくときに確認しているが、市

	報を見てという申し込みがほとんどである。
西山委員	男性料理教室を３回行っているが、参加者は男性でなければならないのか。男女共同参画講座なので女性が入っていてもよいのではないか。
事務局	男性料理教室は、あくまで男性を対象としている。
議長	参加者の年代は？
事務局	６０代、７０代が多い。
議長	退職後の男性の生活者としての自立ということで、高齢の男性を対象としている講座であるということを前面に出してもよい。
松村委員	男性料理教室を開催する目的は、男女共同参画の観点から家庭で女性に負担をかけすぎないとか、家庭でできる男性の役割分担を増やす、そういった目的でこの講座を企画していると理解しているが、その点についてどうか。
事務局	委員ご指摘のとおり、男女共同参画社会を推進する上で、男性の意識啓発を目的に開催しているものである。
松島委員	今の若い男性は、積極的に家事をやっているのではないか。
松村委員	１２月７日に開催した、男女共同参画フォーラム２０１３に参加した。 講師の話の内容はよかったが、アサーショントレーニングとしては時間が短かすぎると感じた。
議長	他市の事例でもそうだが、男女共同参画フォーラムという

	と自己啓発の内容になりがちとなる傾向がある。 男女共同参画に対する社会的視点や知識を得られるような企画があってもよいと思っている。 男女共同参画社会について、参加者が自ら考えるような企画もよいのではないか。
議長	他にあるか。なければ、議事の（２）、平成２６年度 VIVA ぎょうだ実施事業計画（案）について、事務局に説明をお願いします。
事務局	（会議資料の２、「平成２６年度 VIVA ぎょうだ実施事業計画（案）」の詳細説明）
山崎委員	男女共同参画フォーラムは４３名の参加をいただいた。 良い内容だったのでもっと多くの方に聞いていただければよかった。 平成２６年度も同じような規模での開催を予定しているのか。 もう少し大きい会場、例えば教育文化センター「みらい」などで開催して、多くの人に聞いてもらったほうが良いのではないか。
事務局	平成２５年度の男女共同参画フォーラムは、「VIVA ぎょうだ」という男女共同参画の活動拠点があるということを知っていただくため、VIVA ぎょうだで開催した。 折に触れて、「VIVA ぎょうだ」という施設を市民に知っていただけるようなイベントを開催していきたいと考えているが、委員ご指摘の男女共同参画フォーラムのような大きなイベントについては、開催場所を再検討していきたい。
山岸委員	去年の講座の開催時間をみると、昼間がほとんどである。 夜の時間帯の開催も検討すれば、もっと参加しやすい人も

	いるのではないか。
議長	重要な意見だと思う。女性であっても夜の講座のほうが参加しやすいという人もいる。
事務局	平成26年度に開催する事業については、そういった視点を取り入れていきたい。
議長	講座の企画の募集などはしないのか。 男女共同参画に関わる団体と講座を企画してみてはどうか。
事務局	多様な主体との協働は地域づくり支援課の組織目標でもあるので、今後研究していきたい。
議長	そうした仕組みができればいい。 毎年同じ講座を繰り返すのではなく、新しい企画の可能性にもつながる。
矢本委員	啓発イベントは関心のある人は来てくれるが、関心のない人はなかなか来てくれない。関心のない人に来てもらうためには、異なる種類のイベントとの抱き合わせ、例えば子どものイベントと組み合わせてやってみるなどしたらどうか。
筆委員	地域の事業は、地域公民館が多様な主体と連携して実施している。 VIVAの場合は、市内全域をカバーしなくてはならないので難しい。地域公民館と連携して事業を実施することを検討してみてはどうか。 公民館は大きなイベントを開催するときは、大抵日曜日に開催する。そうすれば人は集まる。 大きなイベントを開催するときは、人が集まるような状況

議長	を作り出さないと人を集めるのは難しい。 または、人が集まっているところで事業をする。 そうした方法を考える必要があるのではないか。 企画だけでも、そうした人が集まっている場で考えてもらうのもいいのではないか。 地域との連携は大きなヒントになるのではないか。
事務局	各委員から重要な示唆をいただいた。
議長	今年度実施した年金講座は、来年度は実施しないのか。
事務局	VIVA セミナー等を活用して実施していきたい。
議長	次に、議事の３、平成２４年度分第３次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況調査結果に係る審議会意見について、事務局に説明をお願いする。
事務局	（会議資料３、「平成２４年度分第３次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況報告書、会議資料４、「審議会等への女性の登用状況（平成２４年度）」、会議資料５、「平成２４年度分第３次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況報告書に対する行田市男女共同参画推進審議会の評価及び意見」の詳細説明）
議長	資料３、４、５が公表されるのか。
事務局	すべてホームページ等で公表する予定である。
議長	平成２４年度の計画がないのに実績だけあって評価がついているものもあるが、そういうものはどう扱うか。 公表されることを前提として、各委員から意見を聞きたい。

松村委員	審議会の意見として、計画にはないが結果として実績があるものも、文言をかえて評価報告書のような形をとったらどうか。
筆委員	同様の実績で自己評価の違うものはどう評価するのか。
松村委員	前回も議論されたが、計画の表現が漠然としすぎている。計画はもっと具体的に立てるべき。 報告書のほうは市からの報告なので、審議会の立場としては直しようがない。
議長	審議会の意見として、総括的事項の中に、「第3次ぎょうだ男女共同参画プランを踏まえた、より具体的な計画を立てるべき」という文言を入れたほうがいい。 計画を立てるときに、第3次プランを意識して立案するという要望を入れてはどうか。 数値目標を定めることについては、あまりこだわらなくてもいいと思う。 これまでの計画と実績については、審議会として意見を言うことはできないかもしれないが、今後の計画については要望を言ってもいいと思う。 行政推進会議を開いているが、各担当の雰囲気はどうであったか。
事務局	行政推進会議は課長級の職員が委員になっているが、「審議会等への女性の登用状況」に対する意識は比較的高いと思う。 第3次プランの進捗状況については、所属長がどこまでプランを意識して施策を進めているのか見えづらい状況である。
大野委員	いろいろな理由があって、女性を登用できない状況もあるのではないか。

議長	審議会の意見として、「審議会等へ女性の登用を推進することは重要なことであり、そうした努力をしていることは評価できます。さらに、女性が参画することの意義について理解を進めることを期待します。」と入れてはどうか。
事務局	各所属長には、今日の審議会で出された意見を付して進捗状況を公表することを伝えたいと、最終的な確認をとりたいと思う。
松村委員	プランという冊子を渡すだけでは理解度が低いのではないかと。民間では、必ずセミナーを開いてラインでケアをして各担当の意識改革を進めている。そういうやり方をしている。 今回の計画をみると、組織として意識の統一ができていないと感じた。 今回は仕方ないと思うが、次回評価をする際は、事業計画が出された時点で計画自体が適切かどうかを検討する必要があるのではないかと。 そうした提言まで入れてみてはどうか。
議長	まったく賛成である。 職員研修会もあるので、男女共同参画の基本的な部分について、もう一度きちんと理解する必要があると思う。
松村委員	仕方のないことだが、冊子を見るだけでは理解度が違う。
議長	男女共同参画社会の本質を理解してもらって、何ができるのかということを考えてもらう。そのことがプランのどこに当てはまるかを考えてもらうという、逆の発想で計画を立ててもらいたいと思う。 事業計画そのものが適切かという点も評価したほうがいいと思う。

	計画がプランに沿った意義のあるものになっているか、計画を達成するための具体的体制づくりに取り組んでいるか、そしてその計画が実行できたのか、自己評価も適正にできているか、というところまで見ていったほうがいいと感じた。
井上委員	男性が育児休業を取得することについて、企業の管理職に話をしたことがある。 管理職の意識、特にトップの考え方が非常に重要である。 第3次ぎょうだ男女共同参画プランは、所属長の意識を変えていかないと変わらないのではないかと。
議長	今回の審議会の意見、評価に反映できないか。
筆委員	プランの管理職向けのセミナーは開催すべき。 プランを理解できていないと計画も立てられない。
議長	管理職向けのセミナーの開催は必要だと思う。
筆委員	報告書を見ると、実績がないにもかかわらず次年度に同じ計画をあげている担当もある。
議長	実績についても、何をやったのかより具体的に記載してもらいたい。
事務局	公表前には、審議会の意見を付して、再度各担当に確認してもらおう。審議会の意見を踏まえた見直しをしてもらえと思う。
議長	審議会として、わかりやすい意見、評価を入れていきたい。
松村委員	報告書は結果である。審議会としては、ある程度厳しい意見を入れなければならない。管理職に事前の意識があったか

	という点は、入れておいたほうがいいのではないか。
山崎委員	例えば、「啓発のためのポスターを掲示する。印刷物を配布する。」という計画に対し、実績が「掲示した。配布した。」となっているのに評価は「C」となっている。何故か。
事務局	ポスターの掲示、チラシの配布は行ったが、それがどのくらい周知できたか実績をとっていないため、「A」は付けづらかった。
松村委員	市民の目に触れたとき、市民は首をかしげるのではないか。 計画通りにやれているのに、評価は「C」。今言ったようなことは報告書からは読み取れない。情報不足だ。
議長	評価を裏付けるような実績もきちんと報告してもらいたい、ということも審議会の意見として入れたほうがいいか。 何故その評価なのかという実績を入れてもらう。
松村委員	個人的な感想だが、ある程度文字数を入れて記入している担当とそうでない担当の差がある。次回検討事項にしてはどうか。一行だけだと情報的に不足している。
議長	計画も実績も漠然としすぎているということだと思う。
事務局	行政推進会議の場で、計画を立てる基準を示す必要があるのではないかといった意見も出された。 プランは全庁的に取り組む計画であり多岐にわたるものであることから、計画については各担当で検討してもらいたいと答えた。
議長	男女共同参画社会実現のイメージをどれだけ持っているかで、自分の課では何ができるか主体的に考えていただく必要

	がある。プランに記載されている担当部署はあくまで参考であって、ここに書いてあるからやらなくてはいけないということではなく、自分たちが主体的に取り組めることを考えてもらえればいいと思う。
議長	他に何か意見はあるか。
松島委員	組織に異動はつきものだが、管理職に対する男女共同参画の意識付けは必要だと思う。 この審議会で、事業計画などを管理職に説明してもらってもいいのではないか。
議長	他の自治体では、そういうことをやっているところもある。 それから、審議会意見の下から２番目、児童虐待の連携した取組に、「家庭」も入れたほうがいい。 今日の意見を踏まえて、審議会としての意見、評価を再度まとめて皆様に文書でお諮りしたいと思う。 最終的な案については、私と事務局で調整したいがよろしいか。 (了解の声あり)
議長	次に、議事の（４）、その他について何かあるか。
井上委員	年金講座でも話をしたが、年金の分野においても男女共同参画に関わる改正があったので紹介したい。 平成２６年４月から父子家庭においても遺族年金が支給されることとなった。 その他、年金受給年齢の関係の裁判で判決が出て、現在法改正に動いている状況。
矢本委員	平成２５年度 VIVA 実施事業の中で、リーダーステップア

事務局	ップ講座と VIVA セミナーが未定のままとなっているが、実施する予定はあるのか。 資料では、男女共同参画講座の中に「キャリアアップ出前セミナー」を入れているが、VIVA セミナーの講座である。 リーダーステップアップ講座については、現在未定の状況で、今年度残りの期間で企画、実施するのは難しい状況である。
議長	昨年度リーダーステップアップ講座は実施したのか。
事務局	昨年は「防災」をテーマに実施した。 対象者は、自治会長、自治会女性部の役員、などであった。
松村委員	昨年度のリーダーステップアップ講座はどういう内容であったか。
事務局	昨年は・・・、失礼しました、昨年は「孤独死への取組」をテーマに実施した。講師は、松戸の孤独死ゼロ研究会の方をお呼びして、民生・児童委員、地区女性部長、自治会連合会長、審議会委員、を対象に実施した。
議長	男性料理教室は毎年実施しているのだから、評判の良かったもの、例えば「孤独死への取組」などは毎年実施していいと思う。
松村委員	裾野を広げるためには、良い内容の講座は何回でも実施したほうがいい。
議長	他に何かあるか。 なければ、以上で本日予定していた議事はすべて終了した。 これをもって、議長の職を解かせていただく。

